

北摂周辺のトゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシ

森 和夫

トゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシは共に *Lema* 属のハムシであるが、図鑑等によると、いずれも稀な種として記載されている。筆者は、後述する北摂地区の数ヶ所において、この2種の生息を確認した。

これらの生息地では、共にイボクサを食草として混生し、個体数も多い。また、不十分なデータではあるが飼育することもできたので報告する。

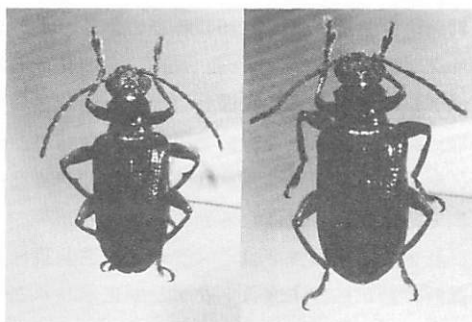
1. 2種の概要

① トゲアシクビボソハムシ *Lema coronata* BALY

体長5~6mm程度。外観は、ルリクビボソハムシ *Lema cirsicola* CHŪJŌ やキバラルリクビボソハムシ *Lema concinnipennis* BALY に似ている。

本種は、中肢の脛節中央内側にトゲ状の突起があり、また、頭部に赤紋を有する等によって他種から区別できる。トゲ状の突起は、♂の場合は顕著であるが、♀では目立たず、脛節の内側がわずかにふくらむ程度である。体色は、通常メタリックな黒青色であるが、かなり変異があり、中には黒色の個体も見られる。体形は、♀の方が♂よりも体長、肩巾ともにひと回り大きい。

本種の兵庫県下における記録に関しては、高橋寿郎氏が「きべりはむしVol.18, No.2 (1990)」に取りまとめておられる。この報告によると、これまでのところ6ヶ所から若干の個体数が得られているに過ぎない(この中には筆者が神戸市藍那で採集した記録も掲載して頂いている)。また、北摂地区関連の出版物としては、仲田元亮氏の著書である「能勢の昆虫」(1982)と、宝塚市教育委員会発行の「宝塚の昆虫」(1992~1996)がよくまとめられている。「能勢の昆虫」では、兵庫県側の川西市や川辺郡猪名川町も範疇に含まれているがこの中に本種の記載は無い。「宝塚の昆虫」においては、保育社刊・原色日本昆虫図鑑(上)のもの



♂

♀

トゲアシクビボソハムシ

Lema coronata

川西市一庫 12.VIII.1995 本人採集

と考えられる後藤光男氏のデータ(1950)が引用されているだけである。

食草は、これまで筆者が見たどの資料でも「ツユクサ」となっている。しかし、本種はツユクサにも産卵し育ちはするが、後述する調査の結果から見ても、明らかに「イボクサ」が主要な食草であると考えられる。食草と生息環境が判明した後は、意外と身近な場所でも、次々と生息を確認することができた。成虫で越冬し、5~10月の間に成虫の活動している姿が見られる。

② スゲクビボソハムシ *Lema dilecta* BALY

体長は3.5~4.5mm程度。前種に似ているが小型であり、中肢のトゲ状突起は無い。上翅には多数の強い点刻が並び、目立つ。体色は、前種と同様な黒青色であるが、黒色の個体もある。肢の色は変異が多く、通常は黒色で脛節の付け根が黄褐色のものが多いが、中にはほとんど黄褐色の個体もある。頭部には赤色の紋がある。

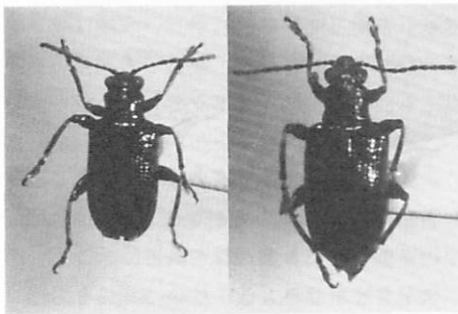
本種の兵庫県下の記録に関しても高橋寿郎氏が稀な種として報告されている(きべりはむしVol.14, No.2 (1986))。また、本種の場合も「能勢の昆虫」には記載されておらず、「宝塚の昆虫」の方には、やはり後藤光男氏のデータ(1951)のみ引

用されており、図版の部分は空白となっている。

後藤氏のデータのソースと考えられる保育社刊「原色昆虫図鑑(上)」p.70の解説によるとキアシルリクビボソハムシ *Oulema tristis* (HERBST) と共に『アシの茎中より多数採集した』と記載されている。図鑑の図版では詳細まで分からないがこのキアシルリクビボソハムシは、本種の肢が黄褐色の型ではないかと気になるところである。

これまで本種の食草は「スゲの類」と記載されてきた。しかし、筆者はトゲアシクビボソハムシを目的に採集に行った際、偶然に同じ場所で本種も採集した。その後、本種もイボクサが食草であることを確認した。この2種は、同じイボクサを食草とするため北摂周辺の調査地では混生していることが多い。個体数は、いずれの場所でも、トゲアシクビボソハムシより本種の方が少なかった。

また、本種も成虫で越冬し、同時期に見られる。



♂ ♀

スゲクビボソハムシ

Lema dilecta

神戸市北区藍那 12.VII.1992 本人採集

2. 調査経緯

以前、筆者は「きべりはむし Vol.14, No.2, P.36 (1986)」の「ヒラズゲンセイを神戸市で採集」の報告の中で、当日採集したものとしてトゲアシクビボソハムシ2頭等を付記した。筆者は、それまでルリクビボソハムシやキバラルリクビボソハムシについては、各所で採集していたが、トゲアシクビボソハムシはこの時、藍那で初めて手にした。

当初は、他の場所で見ることができず、近くへ採集に行った際は、藍那へよく立ち寄った。

1987年7月5日には、藍那の同じ場所で、畦道の土手をスイーピングし4頭を採集したが、その中にトゲアシクビボソハムシは1頭だけで、他の3頭は、似てはいるが小型であることに気付いた。

小型の種は、帰宅して調べたところスゲクビボソハムシと判明した。

また、1992年7月12日に藍那を訪れた際には、畦道に屈んで探していると、足元付近から2種が次々飛び立ち、稲の葉や茎に止まるため採集が容易であった。この時は個体数が多く、各々数頭ずつをフィルムケースに入れて持ち帰った。フィルムケースは1つしかなくて、蓋を開ける度に先に入れた虫が逃げようとするため、足元にあった草の葉をちぎり、ケースに入れた。3枚入れた葉はたまたま異なった種類の草であったが、帰宅して出してみると、そのうちの1枚が食べられていた。

水田の周囲に見られる草を中心に、植物図鑑で調べた結果、その草が「イボクサ」であることを確認した。この時、持ち帰った成虫は、イボクサが手元に無いため、ツユクサを与えて飼育した。

トゲアシクビボソハムシは、容易に産卵し、成虫まで飼育することができたが、スゲクビボソハムシの方は、産卵させることができなかった。

次に、1992年9月6日に藍那に出掛けた際は、先ずイボクサを探した。イボクサは、水田の縁にも生えていたが、泥に埋まった水路には群生していた。葉を丹念にめくってゆくと、予想通り幼虫を見付けることができた。この幼虫からは、スゲクビボソハムシ(19, IX, 1992; 1♂)と、トゲアシクビボソハムシ(9, X, 1992; 1♂, 11, X, 1992; 2♀)が羽化した。1993年9月5日に採集した幼虫からは、スゲクビボソハムシ(22, IX, 1993; 1♀)が羽化した。1994年7月9日の場合は、幼虫の他に蛹も見つけることができた。いずれもスゲクビボソハムシが羽化した(14, VII, 1994; 1♀, 17, VII, 1994; 3♀, 19, VII, 1994; 1♀, 20, VII, 1994; 1♀)。

蛹は3つ見付けたが、成虫が羽化したものは14日の1頭だけで、その他の2つからは体長2mm程の寄生蜂が羽化してきた。幼虫を採集したのも、同様に寄生されているものが多かった。

クビボソハムシの類は、蛹化の際に口から白い泡のようなものを吐き出して繭をつくる。前記のスゲクビボソハムシの繭は、イボクサの葉裏や葉の付け根で見付けることができた。飼育した場合も同様であった。トゲアシクビボソハムシの方は、まだ、自然状態では蛹を見付けていない。飼育すると葉の付け根等にも繭をつくるが、食草をさした瓶の口に綿を詰めていると、その綿の中に入って繭をつくっているものが多かった。トゲアシクビボソハムシの場合は、自然状態では、地中で蛹化することが多いのではないかと推測された。

以上のことから、この2種は共にイボクサが食草であることは間違いないものと考えられる。食草が判明し、生息環境も分かってくると、これまでは目を向けてこなかった水田の周囲にも注意するようになった。注意して見ているとイボクサは、珍しい植物ではなく、身近な水田でも見付けることができた。

後記にまとめたように、トゲアシクビボソハムシやスゲクビボソハムシは意外なほど次々と見付かった。中でも、川西市^{なまべ}笹部(兵庫県)や豊能郡^{よし}吉川(大阪府；初谷溪谷の入口)は、著名な採集地であり、筆者自身も何度も通った所であるが、今までは手前の水田の前を素通りしてきていた。また、笹部^{ひとくら}や一庫は、自宅から自転車に乗ってでも5~10分の所であり、個体数も多く見られた。

3. 食性等について

トゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシは共にイボクサが主要な食草であることは間違いないと考えられるが、トゲアシクビボソハムシの方は、自然状態でもたまたまツユクサを食草とすることがある。滋賀県の琵琶湖東岸においてツユクサの葉上で、トゲアシクビボソハムシを採集した

ことがあった(21, VII, 1988; 1♂)。また、笹部の畦道に生えていたツユクサから得た幼虫からもトゲアシクビボソハムシが羽化した(幼虫採集 4, VI, 1995. →羽化24, VI, 1995; 1♀)。飼育した結果でもトゲアシクビボソハムシは、ツユクサをよく食べ、産卵し、成虫にまで育てることができた。

スゲクビボソハムシの方は、今までのところ、野外ではイボクサ以外から成虫も幼虫も見付からなかった。また、飼育においては、ツユクサでは産卵させることができなかったが、幼虫が少し育ったところでツユクサを与えた時は、無事成虫となった。また、蛇足になるかもしれないが、この頃に採集し飼育した他のクビボソハムシ類も含めて食性を調べた概要を別表にまとめた。

なお、キバラルリクビボソハムシに関しては、自宅で栽培していたイボクサの葉上で成虫を採集したことがあった(13, VIII, 1992; 1♂)。しかし、笹部で採集した成虫(1, VII, 1995; 1♂1♀)にイボクサを与えて飼育しようとしたが直ぐに死んだため、イボクサを食べるかどうか、その後確認できていない。

最近、「日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説」

《クビボソハムシ類と食性》

種名	食草	
	イボクサ	ツユクサ
トゲアシクビボソハムシ <i>Lema coronata</i>	◎	○
スゲクビボソハムシ <i>Lema dilecta</i>	◎	△*
キバラルリクビボソハムシ <i>Lema concinnipennis</i>	?	◎
カワリクビボソハムシ <i>Lema diversa</i>	△*	◎
キオビクビボソハムシ <i>Lema delicatula</i>	△	◎

注) ◎；主要な食草

○；野外でも食草となることを確認

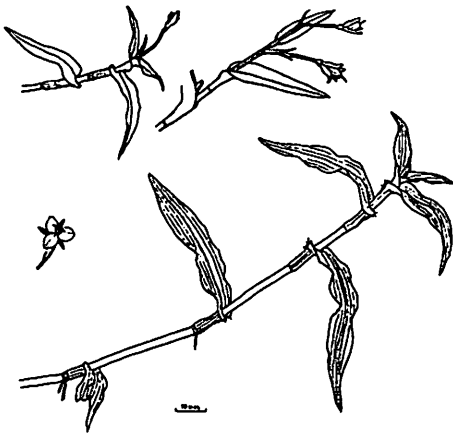
△；飼育中の成虫に与えれば食べた食草

*；幼虫の段階で与えて飼育が可能であったもの

(1994)を入手することができたが、この中に初めてスゲクビボソハムシがイボクサを食べることが記載されていた。しかし、トゲアシクビボソハムシの方は、従来通り、ツユクサを食草としている。

4. イボクサ *Murdannia keisak* (Hassk.)について
 前述のようにイボクサは、トゲアシクビボソハムシやスゲクビボソハムシの主要な食草であることが分かったが、筆者はイボクサ自体に馴染みがなかった。昔には、疣ができた際にこのイボクサを揉んだ汁を付けて治療したことから名付けられたそうである。最近、文一総合出版より「日本水草図鑑」(1994)が発行されたが、このp.63には兵庫県三木市、社町、吉川^{よしかわ}町産のイボクサの写真が掲載されている。時には、深い池の中にも生育しているため水草に含めているようである。

イボクサは、筆者の自宅付近においては3月下旬頃に発芽し、10月末頃に紅葉した後に枯れる一年草である。通常は、水田の縁に多く、泥の中に根を張りながら横に莖を伸ばす。莖の節目からも直ぐに発根するため、カーペット状に広がっている。葉は互生で肉厚質、細長く先端は尖る。9月下旬頃には、3枚の花弁のピンクの花を付ける等により水田の周囲では見分け易い植物である。



イボクサ *Murdannia keisak*

23, IX, 1994 神戸市藍那産(川西市栽培)

5. 生息地と採集データ

これまで北摂周辺で採集した2種のデータを以下にとりまとめた。飼育したものは含んでいない。採集者は全て筆者である。

なお、各地とも採集した個体は、目撃した数の半数以下となるように心掛けたため、生息地の個体数は決して少なくはなかった。

1) トゲアシクビボソハムシの採集データ

①神戸市北区藍那

7, VII, 1985; 2♂, 5, VII, 1987; 1♀, 12, VII, 1992; 6♂4♀, 19, IX, 1992; 1♂, 5, IX, 1993; 1♂5♀, 9, VII, 1994; 12♂2♀, 4, IX, 1994; 2♀

②川西市笹部^{ささべ}

17, VI, 1993; 1♂(灯火), 6, VIII, 1994; 1♂, 3, IX, 1994; 6♂3♀, 24, IX, 1994; 4♂5♀, 1, X, 1994; 1♂, 2, X, 1994; 1♂1♀, 16, X, 1994; 4♂3♀, 4, VI, 1995; 5♂2♀, 24, VI, 1995; 4♂2♀, 1, VII, 1995; 1♂2♀, 16, VIII, 1995; 1♀, 7, X, 1995; 1♂1♀, 14, X, 1995; 2♀, 23, X, 1995; 1♀

③川西市一庫^{ひとつくら}

12, VIII, 1995; 14♂13♀, 7, X, 1995; 3♂2♀, 14, X, 1995; 1♀

④宝塚市長谷(西谷地区)

9, VIII, 1995; 1♂2♀

⑤大阪府豊能郡豊能町吉川^{よしかわ}

23, VII, 1994; 1♂, 10, IX, 1994; 10♂7♀, 5, VIII, 1995; 2♀

⑥大阪府能勢町森上^{もりがみ}

24, VI, 1995; 9♂5♀

⑦大阪府能勢町山辺

24, VI, 1995; 1♂

2) スゲクビボソハムシの採集データ

①神戸市北区藍那

5, VII, 1987, 1♂2♀, 12, VII, 1992; 2♂3♀, 6, IX, 1992; 3♀, 5, IX, 1993; 1♂2♀, 9, VII, 1994; 8♂7♀, 4, IX, 1994; 8♂5♀

②川西市笹部

24, IX, 1994; 2♂1♀, 24, VI, 1995; 1♂1♀

③川西市一庫

12, VIII, 1995; 7♀, 7, X, 1995; 1♂

④大阪府豊能郡豊能町吉川

23, VII, 1994; 5♂3♀, 10, IX, 1994; 3♂1♀,
9, X, 1994; 2♂

⑤大阪府能勢町森上

24, VI, 1995; 9♂9♀

6. おわりに

トゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシは、共に稀な種と考えられていたが、水田に多いイボクサが食草であることが分ると意外に身近な所で、両種が混生していた。水田は、単調な生態系と見られてきたことが盲点となっていたと考えられる。これまでに、筆者の行動力で調査できた範囲はわずかであったが、今後も調査地点を広げてゆきたいと思っている。生態に関しても、まだまだ不十分な調査結果であるため、もっと詳しく調べまともてみたい。

もし、この両種について興味をお持ちの方は、ぜひイボクサを目当てに調査し、報告して頂ければと思う。

(MORI KAZUO 川西市見野1丁目2-18)

<参考文献>

- 1) 大野正男(1967) 昆虫と自然 Vol.2(2)p.14
- 2) 木元新作(1987) Pacific Insects Vol.3(1) p.117
- 3) 木元新作(1987) 昆虫と自然 Vol.22(2)p.25
- 4) 木元新作他(1994) 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説 東海大学出版会
- 5) 日本甲虫学会(1955) 原色日本昆虫図鑑(上), 保育社
- 6) 林 匡夫他(1984) 原色日本甲虫図鑑(IV), 保育社
- 7) 高橋寿郎(1986) きべりはむし Vol.14(2) p.42
- 8) 高橋寿郎(1990) きべりはむし Vol.18(2) p.37
- 9) 仲田元亮(1982) 能勢の昆虫・甲虫の部(下)
- 10) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫IV・甲虫目(II)
- *食草関係
- 11) 北村四郎他(1964) 原色日本植物図鑑, 草本編(下), 保育社
- 12) 佐竹義輔他(1982) 日本の野生植物, 草本I 単子葉類, 平凡社
- 13) 角野康郎(1994) 日本水草図鑑, 文一総合出版

諏訪山公園の蝶(追加その1)

山口福男

諏訪山公園の蝶について本誌第23巻第1号(1995)に報告したが、その後新たに2種について観察したので報告する。

イチモンジチョウ 1995年9月10日 1♀

クロコノマチョウ 1995年10月29日 1ex.

イチモンジチョウの雌の飛翔中はアサマイチモンジと見分け難く、捕獲してようやく確認できた。

六甲山系に普通に見られる蝶なので、これまでに観察できなかったのが不思議なくらいである。

クロコノマチョウはここ数年来神戸市内で採集される数が増加しており、いつかは諏訪山公園に現れると期待していたが割に早く観察の機会に恵まれた。新鮮な秋型で雌雄は判別できなかった。

この個体は11月3日まで同じ場所にいたが、その後姿を見ることがなかった。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)